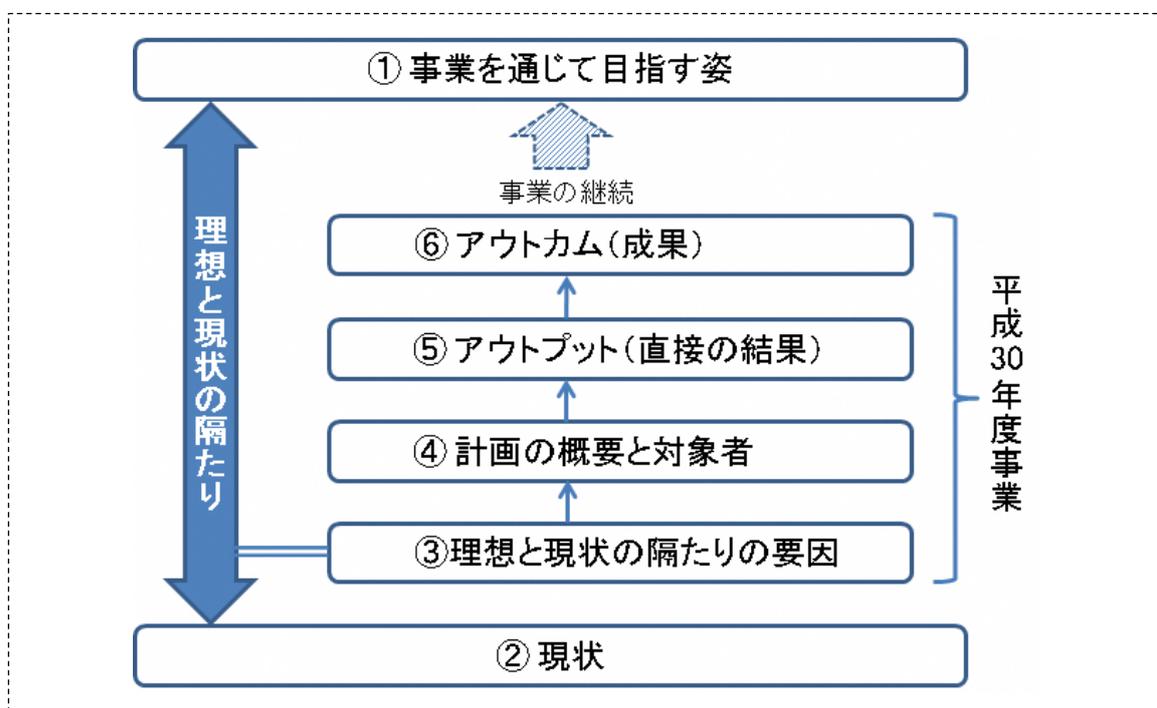


事業計画書

事業名	聴覚障害者のための和太鼓ワークショップ事業（2）
団体名	備中邦楽の里フェスタ実行委員会

記入する項目の関係図

次の図は、この事業計画書の各項目の関係を示したものです。以下、この図を意識しながら、各項目に記入する内容を検討してください。



1 目指す姿

事業を通じて目指す姿や、事業を実施する目的はどのようなものですか。「地域や社会、人のどんな問題を解決し、どのような状態にしたいのか」を具体的に記入してください。

・聴覚障害者のいきがいと社会参加、コミュニケーションのきっかけとなる、文化体験の場の創出。

（イメージ：聴覚障害者とその家族が、太鼓をコミュニケーションのツールとして、一緒に楽しむことができる。また、イベント参加などを目標にすることによる意欲が高まり、社会参加へのきっかけとなることが期待できる。）

・アーティストの社会貢献活動の場の創出。

・関連団体等との情報交換と連携強化。

2 現状

上記 1 の目指す姿と比べて、現在はどのような状況にありますか。

平成 28 年度備中邦楽の里フェスタにおいて「小学生対象の和楽器ワークショップ（講師：山部泰嗣 / 倉敷天領太鼓）」を実施したところ、終了後に、参加者の保護者の方から、「実はうちのこどもは、耳が聞こえないのですが、和太鼓の体験をとても楽しんでいました」との感想を頂戴しました。

その後、聴覚障害者の方と意見交換をすると、太鼓は耳が聞こえなくても、空気の振動でリズムや場の一体感を楽しめることが分かりました。しかし、一般の音楽体験ワークショップなどに参加することは、周りの人に迷惑をかけないか、指示が言葉で説明されてわかるか、など不安が大きいこともわかりました。

平成 29 年度 倉敷市市民企画提案事業「聴覚障害者のための和太鼓ワークショップ事業」において、和太鼓ワークショップを開催したところ、参加者からは「このような機会が欲しかった」「今後も、継続してほしい」とのアンケート回答が多数寄せられ、期待とニーズがあることが、わかりました。「学校を卒業すると、社会とかかわる機会が減る」との声も、アンケートからわかりました。

3 目指す姿と現状の隔たりの要因

上記 1 と 2 の隔たりを生み出している主な原因はどのようなものと考えますか。

- ・聴覚障害者が安心して参加できる、地域イベント等が少ないため。
(地域イベント等について、聴覚障害者が安心して参加できるように、設計されていない)
- ・専門の手話通訳者を手配するには、費用が必要であるため。
- ・聴覚障害者とスムーズなコミュニケーションが可能なアーティスト等が少ないため。
- ・参加可能な機会があっても、情報が届きづらく、知らないため。

4 計画の概要と対象者（平成 30 年度）

上記 3 で挙げた要因を取り除くため、どのような人を対象に、どのような活動を実施しますか。150 字以内で簡潔にまとめてください（計画の詳細は下記 7 に記入してください）。

聴覚障害者が参加可能な和太鼓体験ワークショップを開催します。
聴覚障害者が参加可能な曲を作曲（もしくは選曲）し、倉敷市内でのイベントで、アーティストとともに、演奏・披露します（平成 31 年度）。

アウトプット（直接の結果）とアウトカム（成果）について

アウトプットとは 事業の直接の結果であり，事業を通じて，どれだけの人に対し，どのようなサービスが提供されたかをいいます。

アウトカムとは 事業の成果であり，アウトプットが地域や社会，人にもたらす変化や効果をいいます。事業はこのアウトカムを生み出せるように計画します。

アウトプットとアウトカムの関係

事業を実施すると，まず， というアウトプットが生じ，次にその成果として， というアウトカムが生じる関係にあります。

事業実施 アウトプット アウトカム

アウトプットとアウトカムの例

事業名	活動	アウトプット	アウトカム
学習支援事業	学習会の開催	月 4 回，各回 20 名参加	参加者の学習意欲の向上
就労支援事業	冊子作成・配布	1 千冊作成，800 人に配布	就労に必要な知識の習得
保護者支援事業	居場所の運営	週 2 回，各回 15 名参加	育児の負担感の緩和
移動支援事業	高齢者の送迎	週 2 回，各回 5 名利用	移動手段の選択肢の増加

5 アウトプット（直接の結果）

平成 30 年度の事業を通じて，どれだけの人に対し，どのようなサービスを提供しますか。

聴覚障害者を対象とした和太鼓ワークショップ・・・4 回開催（各回 15 名）参加。
 聴覚障害者が参加可能な曲・・・1 曲。
 イベントでの発表・・・1 回。

アウトプットを測る指標と数値目標を記入してください。

指標	現状の数値	事業実施後の数値目標
ワークショップ参加者（のべ）	第 1 期（平成 29 年度） 47 名	第 2 期（平成 30 年度） 60 名 第 1～2 期 合計 107 名
イベント発表の回数	0 回	1 回（平成 31 年度）

事業実施後の数値目標は，どのような方法で測りますか。

聴覚障害者の社会参加への意欲の向上（アンケートで測る）
 聴覚障害者の心的ストレスの軽減（アンケートで測る）

6 アウトカム（成果）

上記 5 のアウトプットが、平成 30 年度中に、地域や社会、人にもたらす変化や効果はどのようなものですか。

イベントでの発表を通じて、聴覚障害者の抱える社会参加に関する不安等が、周知される。より多くの聴覚障害者に情報が伝わり、参加への意欲が高まる。

7 計画の詳細

(1) 具体的な内容

内容、対象者、実施期間、実施場所、ねらいなど、できるだけ明確に記入してください。

初年度（前年度）は、初めての試みではありましたが、聴覚障害者の支援団体等からの協力も得て、無事に全 3 回のワークショップを開催することができました。

また、この事業が縁となって、岡山聾学校へのアーティストの訪問、生徒との交流も埋まれました（副次的な効果）。「もっと早く知っていれば、周りに声をかけたかった」などの声も聴くことができ、内容への満足をいただいた半面、広報等に課題を残した結果でした。耳が聞こえない方々が、初めて、直接、音が出ている太鼓に触る体験そのものに、感動があり、参加者が笑顔になることを、講師や運営者も実感しました。

本年度事業は 2 年目となり、より安定的・意欲的な事業内容を実施いたします。

リズム遊びから、演奏の初歩までだった内容を、一歩進めて、曲にチャレンジすることで、参加者の一層の意欲を高めることを狙います。また、3 年目以降に、行政協働事業に提案することを視野に入れて、関係部署との連携を図り、行政課題・政策課題としての意味づけを考慮するほか、岡山聾学校など関係団体との連携を深めて、「倉敷モデル」とも言える、聴覚障害者が参加できる体験型のプログラムの精度を高めます。

ワークショップ開催

- ・聴覚障害者が安心して参加できる、和太鼓ワークショップを開催します。
- ・全 4 回開催（下半期：4 回）
 - ・下半期 4 回（11 月、12 月、2 月、3 月）は、新しい参加者を含めて周知を行い、初心者でも参加できる会を開催します。（次年度でのイベント参加を目標とします）
- ・会場：地藏院ホール（岡山県倉敷市阿知 3 丁目 2 0-1 7）

オリジナル曲の作曲（もしくは、既存曲の選曲とアレンジ）

- ・聴覚障害者が演奏することに配慮した、和太鼓の曲を作曲（もしくは、既存曲のアレンジ）を行います（講師への委嘱）。

イベント参加

- ・ワークショップ参加者を中心としたグループで、イベントに参加し、演奏を披露します。（次年度を目標）。

(2) スケジュール (準備～実施～報告)

10月	・ワークショップ告知
11月	・ワークショップ開催
12月	同
1月	同
2月	同
3月	同
	・報告
	(次年度春のイベント参加を目標にします)

(3) 実施体制

上記(1)の計画を実施するにあたり、実際に取り組む団体会員を記入してください。また、人件費を支払う予定の団体会員には、人件費欄に「有」を記入してください。

氏名	事業に有効な資格や経験	人件費
坂ノ上博史	昨年度事業運営参加(企画)	無
鶴井一美	昨年度事業運営参加(運営)	無
元岡祐子	昨年度事業運営参加(運営)	無
山本将徳	昨年度事業運営参加(経理担当)	無
(以下、員外)		
美鵬 直三朗	和太鼓 講師	(謝金)
東 久示	岡山県聴覚障害者福祉協会 事務局長(アドバイス)	無
土屋 教子	NPO 法人岡山聴覚障害者支援センター 副理事長(同)	無
村上 智士	カメラマン(記録協力)	無
10名を超える場合は、外 名としてください		外()名

8 受益者負担 事業の財源確保のため、可能な限り参加費や受講料などを徴収してください。

(1) 徴収する(見込み: 参加費として、1名あたり、500円程度を徴収する予定)

(2) 徴収しない(理由: _____)

収支予算書

1 収入の部

科目	内訳	金額(円) ₂	積算根拠
受益者負担		50,000	500円 * 20人 * 5回 = 50,000
会費からの繰入		19,000	
その他		100,000	寄付金
市補助金		300,000	
収入合計		469,000	(支出合計と一致)

2 支出の部

科目	内訳	金額(円) ₂	積算根拠
人件費(会員) ₁		0	
交通費(会員) ₁		0	
人件費(アルバイト等)		0	
謝金(講師等)		160,000	2万円 * 5回 = 100,000(講師) 6,000円 * 2名 * 5回 = 60,000(通訳)
旅費交通費(講師等)		213,000	16,300 * 2 * 5回 = 163,000(JR) 10,000 * 5回 = 50,000(宿泊)
消耗品費		0	
印刷製本費		0	
通信運搬費		0	
保険料		6,000	40円 * 30名 * 5回 = 6,000
使用料・賃借料		40,000	会場借料 10,000円 * 4回
外注費・委託費		50,000	楽器運搬 10,000円 * 5回 = 50,000
対象経費計		469,000	
食糧費		0	
人件費		0	
その他		0	
対象外経費計		0	
支出合計		469,000	(収入合計と一致)

1: 会員に支払う人件費と交通費の合算額は、対象経費計の1割を上限とする。

2: 金額欄は切り上げて千円単位で記入してください。